

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
高齢者	高齢者が多く、避難が出来ない	避難時に老人(隣近所)が多く、避難できるか?	要援護者の把握を如何にするか	・要援護者自身又はその家族からの自主申告 ・高齢者救出 隣組(4~5棟)の小さな班を作って脱出時に声かけを行う ・高齢者のマップ作り(65才以上) ・高齢者 事前にどこに住んでいるか把握しておく 隣組の助け合いで...できるだけ ・世帯の状況をアンケートとって一それを組織把握一その後対応できるとこまで						
	年がいつるので体が動くだろうか?(高齢者)	地区内に高齢者や独居高齢者が多いので安全の確認が困難	近所の一人住まいの方(老人等)の安否、どう声かけて助け合えるのかとも心配							
建物	古い建物があり、道が通れなくなる	家が潰れる可能性がある 下敷きになるかも	家の倒壊	・建物 金がないので修繕はムリ 脱出可能な場所で寝ること						
	津波に対する避難路がアマイ	家が古くて建物からケガをせず出られるか心配	家屋の倒壊							
	家具や家の下敷きになって逃げられない									
道路	逃げる場所が狭く、道路が通れなくなるのでは	道中が狭いので逃げる事が出来るだろうか	避難場所まで無事に逃げる事が出来るだろうか?	・道を広くする ・孤立の不安は一備蓄→水、食料、知識を						
	小さい橋(道)がおちる	地区内にブロック塀が多く、崩れる心配が多い	逃げる道がふさがれて家が孤立するかもしれない							
津波	津波が怖い地域	津波が来ると助け合いは出来ない(時間がない)	津波が絶対来る屋根より上の高さか? 逃げるしかない	・津波のこない処へ宅地を造る ・土地の高さがわかるように電信柱にでも書いてほしい						
	津波の到達時間が早いので避難出来るか心配									
住民意識	自主勉強会への参加者が少ないので、後日内容を知らせる広報紙を配っているが読んでくれ	救急・応急処置ができるように...	下敷きになった人を救助するには	・住民意識 繰り返し、勉強会等で意識づけを行う ・協力・共同の意識を高める過程・学校教育(隣に限らず幼少時から) ・建物がつぶれて下敷きになったら、隣組の助け合いで救い出す 努力と訓練が必要						
	自主防組織をスタートさせたが、住民の協力体制がとれるか(連携意識)	自主防で訓練したことが本当に役立つか	静まるのがこわい 一声かけなどなど...	・住民の協力体制・参加等を向上させるには、小さいグループを作り連絡を取りやすくする ・無関心さに腹を立てても仕方が無い 気長に対応することがこちら向きになってくれることにつながりそう						
	避難先が居住地より海岸方向へ4~500mの位置 心理状態として津波の方向へ逃げる気になるか									
液状化	居住地は120戸の新築住宅(埋立)団地 地震後の液状化で津波から逃げられるか	地区の地盤は昔から湿地帯のため液状化現象の心配がある		—						
山崩れ	地震で山崩れ	家の裏側の杉山が崩れるか心配		—						
子ども	屋間、地震が来ると子どもたちと別々の行動になるので心配	子どもの為の地震に対する備えや対応の心配		—						
情報	避難後の情報収集の不安	自分が防災マップ以外の土地にいた時にどこに逃げたらいいか即判断できるか不安		—						
その他:1	食の備蓄を行政でしてほしい	住宅を耐震化するための補助金をもっと出してほしい	地震時の出火							
	避難したあとの食、トイレ等の心配(避難場所)	家の補強には費用がかかる	各駅(公共の場)できあがっている防災マップなどを貼って、誰もが見える掲示板を作っているかどうか?	—						
	トイレは簡易トイレが、ビニールとチラシでできると書いてたのがありました(後ろの展示品の中に)									
その他:2				・耐震診断:可能な範囲でも補強 家具転倒防止で地震でのケガ回避 ・液状化、道路の陥没、地割れに左右されない、援護者の避難方法						

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
高齢者	高齢者が多い中で の共助のありかた	高齢者が多い	老人をどのようにし て連れていくか	・民間(NTT)の協力が心強い						
	高齢者対策が問題 です	高齢化率が50%で 避難するのが心配	避難所での身体障 害者に対するサ ポート体制の確立 が必要							
	近所の人の生活状 況が判っていない									
災害について の正確な情報 の共有	災害が起きた時に どうするかについて の関心の低さ！	関心を持ってもら うにはどうしたら良 いか！	近所のおばあちゃ んが「津波がさらわ れて死んだらその 時よ」とさみしい事 を言う事	・生きる希望を持てる情報の提供の仕方をする						
一時避難場 所の確保	海が近いので津波 が心配	「浜」が近いので津 波が心配	時間がない場合、2 Fでも間に合うのか	・普段の生活の中で、安全な場所についていつも考える						
	すばやく避難をして ほしい	近くの山でも安全な のか？(津波の時)	避難所についての 情報 支援を受ける には指定避難所に いる必要がある事 の徹底							
	家が津波の通り道 になっている事									
避難経路の 確認	避難道路の確保 電柱が多い	避難所が遠い事	夜、子どもが深い眠 りについている事 (二人を抱いて出ら れない)	-						
	避難場所が車イス で逃げられない(バ リアフリーではない)									
(発生後の) 正確な情報の 提供	防災無線放送の改善 は必要	サイレンが聞こえに くい 防災警報を高く、必 要(ママ)	津波についての情 報が多いけれど、 山間部の被害の情 報が少ない	-						
	災害後の情報の交換 の仕方がわから ない									
建物の倒壊	塀が倒れる危険が ある	家が古いのでこわ い つぶれはしない か？	自宅の倒壊	・耐震改修を急ぐ						
	公共の建物の耐震 に問題あり									
住まいの安全 点検	屋内で安全な場所 が分からない	子ども部屋と寝室 が別である事		-						
ライフライン	電気、ガスについ て、どのような手だ てをするのか	安芸市は道が一本 しかないの心配		-						

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
ケガ	救急品の不足	ケガ	ケガ人の治療はできるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所にホウタイ、簡単な薬等を確保しておく ・一般の人でもできる救急法・応急処置法の訓練 ・救急箱 ・救急品の準備(各家で) ・避難場所への備蓄(薬品等) ・各地区で医療経験者の把握 	○	○	○	○		
	地元に住む医師がいないため、緊急時の応急処置やトリアージができない									
避難	避難場所まで行けるのか	高齢者が多い(率が高い) 助けるか	地震の起こるのが先であるほど高齢者が増え、避難に困る	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者に対する担当者を決める ・避難路の見通し ・避難時の声かけ ・安全な場所に移動する ・防災の備品 ・タンカ、リヤカー 						
	妻の体が不自由	津波(低地)から避難	津波が繰り返すあいだは、地区内がいくつか孤立する		○	○	○	○		
	医療拠点に指定されている安芸病院へは、穴内が崩れると予想されるので行けない 救出の人員不足	高齢者の為、避難場所迄に時間がかかりすぎる(一般12分位) 母親の件	海側からの避難時に国道の橋が落ちたらアウト!							
孤立	発電所、導水路にひびき 土石流	山崩れ 孤立		<ul style="list-style-type: none"> ・衛星電話 ・救援物資 ・ヘリ運搬 ・ヘリポート設置 ・食料 			○	○		
家屋倒壊	家から出られるか	津波よりも家の倒壊が心配(古い家)	築40年倒壊の恐れがある	<ul style="list-style-type: none"> ・道具(チェーンソー) ・資機材の設置 ・シェルター(鉄筋組立枠) 						
	古い建物が多いので倒壊が心配	家の倒壊								
意識	山手の集落と海側の集落に分かれているので意識が違う	若い世代ほど訓練に参加しない(小学生を除く)	地域の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学習・啓発のくり返し ・訓練の徹底 ・運動会等で楽しみながら訓練 ・地震心得を作成(一口メモ程度) ・訓練を重ねる 						
避難場所	人々のまとまり	安全な避難場所の確保	トイレ チリ紙	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所での水の確保 ・行政の援助(認識) ・必要最低限の必要品を地区で洗い出す ・複数箇所(第一次、第二次など)、知っておく ・日頃からの知恵を出し合うこと 						
	避難する丈夫な建物がない	避難場所での水や食物はあるのか	夜起きた時の心配が多い							
	勤務先で起きた時、色々の心配が多い	色々の場所、出先での起きた時の心配	避難場所がわからない							
安否確認	近所との連絡、連携	家族は大丈夫か	近所の人は大丈夫か	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃のおつきあい ・119の使用の練習をしておく ・家族での話し合い 						
ライフライン	電気、水道はいつ回復するか			<ul style="list-style-type: none"> ・早急な復旧対策 						

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	誰 が			いつ			
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後	
避難場所の問題	避難場所が遠いのでは？	避難場所まで安全に行き着けるのか？	避難場所が遠く、そこまで行けるか不安である	<ul style="list-style-type: none"> 緊急避難場所をつくる 住民の意見で近くに避難場所をつくる 避難経路の安全確認を日頃からする 避難場所の耐震性をすべき 		○		○		○	
	避難場所の建物が耐震性でない	道路(県道)が狭い 高圧電柱が多く危険	小学校の避難場所までが遠い 1,000~1,400メートル								
災害弱者の問題	障害者の救出	近くの一入暮らしの方を助けられるか？	高齢者が多く、避難が心配	<ul style="list-style-type: none"> 隣近所で弱者の日頃の生活を把握する いざという時の担当を決める 							
	近所の方の安否の確認(高齢者が多い)	高齢者から「遠くまで避難できない」の意見がある	緊急避難所となる高台、建物がない								
津波の心配	津波が必ず来るので危ない、どうすればよいか	川が近く越水が早くあるのではないか	津波で人・家が流されてしまう	—							
	地区約120戸が津波で浸水する										
家の倒壊	古い家の倒壊	古い家が沢山残っていて倒壊が心配	家が壊れたり流されたらどうする	<ul style="list-style-type: none"> 地域で耐震性の素人診断をする 							
	最近の家は家具が固定しにくい										
その他	地区の裏山にある隧道の崩壊の恐れがある	山津波が心配である	交通網が遮断され、孤立化する	—							
	水道の断水	飲み水の確保	道が壊れ、車が使えない								